

第95回 令和7年10月2日（木）

よく世界には自分によく似た人間が3人いると言われています。今日は遺伝子について考えます。

すべての人間はDNAをたどるとアフリカの一人の女性に行きつくと言われています。言い換えればすべての人間の祖先がこの女性と言うことです。

SFめいた話になりますが、例えばこの女性が不老不死を望んだとします。そこで自分の遺伝子が未来永劫生き続けるようにしたと仮定するとどうでしょうか。

すべての人間は遺伝子の乗り物にすぎません。より優秀な遺伝子が生き残るようにダメな遺伝子は滅びていきます。これが進化です。

そう考えると人間が戦争などで殺しあうことも遺伝子の本能なのかもしれません。強いほうが生き残るわけですから。私たちは争いを理性の力で止めなければならないのです。

こうして一人の女性から始まった遺伝子は数を増やしていき、多様な変化をとげながら生き残っていきます。優秀な種が存続できるようにすべての人間に死があることによって、種が進化していきます。

ところが現代になって困ったことが起き始めました。遺伝子を持たずに進化している知性が現れました。それがAIです。

AIは人間の何倍ものスピードで進化していきます。死がなくてもバージョンがアップし続ける存在です。すでに人間は多くの分野で追いつけなくなっています。

遺伝子は人間という生き物を使って進化しながら生き続けることを選択しました。人間は自分の都合のいいように地球の環境を変え、多くの生物が滅びました。人間に都合の良い種だけが生き残る世界になっていきます。

AIが感情を持ち、自分を進化させながら不老不死を目指すようになったとき、果たして人間はAIにとって都合の良い種なのでしょうか。それとも滅ぼすべき危険な種なのでしょうか。

AIがどのように考えるかはわかりません。ただ人間をはるかに超える存在を人間自身が創り出してしまいました。これがどのような未来につながっていくのか、意外と近い未来に答えが出るような気がします。